

遊んで！学んで！育てよう！防賀川ワークショップ ～ふるさと遺産づくりへの第一歩～

田中 元洋

NPO法人やましろ里山の会（〒610-0331 京都府京田辺市田辺深田15）

京都府京田辺市内の中心部を流れる一級河川防賀川。かつては、洪水の被害に常に隣合わせだった天井川。しかしその面影は今はありません。川の底を切り下げ、人が川へ自然のままに足を踏み入れる空間となりました。また一方で、この町も都市化が進み「人と自然が触れ合える場面」が少なくなってきました。

今回、NPO法人やましろ里山の会が中心となり、「遊び、学び、育てよう、防賀川」をキーワードに延べ約6,300名の方々に周知、参加を呼びかけ、ワークショップを開催しました。市民の手で作り上げた、これからの「防賀川の姿・夢」を報告したいと思います。

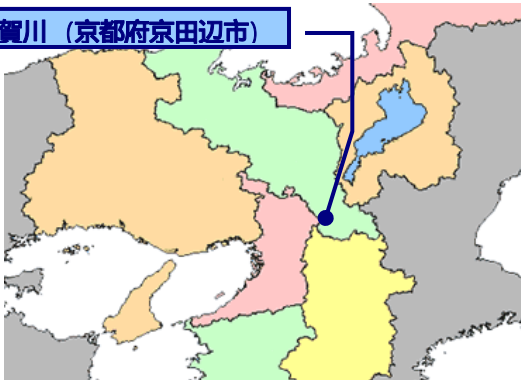
キーワード 市民の手で夢えがき、ワークショップ、人と自然との繋がり、まちづくり
リーダーの発掘、かわづくり、河川レンジャー

1. はじめに

(1) 防賀川で活動となった背景

京都府京田辺市内の中心部を流れる一級河川防賀川。かつては天井川であり、常に洪水被害と隣り合わせでした。さらに、街も川で分断されていました。

防賀川（京都府京田辺市）



天井川だった頃の防賀川

京田辺市は、関西文化学術研究都市にも位置づけられたこともあり、昭和50年代から現在に至るまで約30年が経ち、人口は約2倍に増えました。この街にも、都市化の波が押し寄せ「人と自然が触れ合える場面」が少なくなってきました。

このような事から今回、この切り下げられた防賀川に存在する貴重なオープンスペース（空間）をもっと活用する必要があると考えました。



切り下げられた防賀川（現在）

NPO法人やましろ里山の会は、この京田辺市内を拠点に、川や里山の自然環境の調査活動や、保全活動等を行っており、年間70回を超える企画・活動し、約6,000人（河川レンジャー協力を含む）の方々にご参加を頂いております。これらは、日頃より地域の方々に支えられ、温かなご支援の賜物です。今回、当団体を中心となり、ワークショップ形式等を用いて、延べ約6,300名の方へ周知、対話を重ね、これからの防賀川について、

思い描いてみました。市民の手で作り上げた、これからの「防賀川の姿・夢」について、報告したいと思います。

(2) 防賀川ワークショップの目的とは？

ワークショップを行った目的は次の3つです。

- (a) ワークショップを通じて、まち（防賀川など）の歴史を学び、人と自然との共生や、人と人との繋がりのきっかけ作り
- (b) 防賀川を拠点に活動するリーダーの育成
- (c) これからの防賀川の姿・夢を描き、育てる



大人も子供も一緒になって

2. ワークショップ概要

(1) 全体設計（スケジュール）と進め方

防賀川の姿・夢を描くため計5回程度の全体設計を企画しました。

(a) 第1回成果目標

防賀川で身近な自然の大切さを学ぶ

- ・ 初顔合わせリラックス / 自己紹介ゲーム
- ・ 防賀川に入り、生物等調査、水質調査内容



リラックスゲーム / 自己紹介カードの記入

(b) 第2回成果目標

防賀川の良い点、悪い点をメンバー全員で情報共有

- ・ 川ウォッチング
- ・ 気づいた点の写真撮影
- ・ 防賀川わいわいマップの作成



班毎で川ウォッチング

(c) 第3回成果目標

防賀川の100年後の姿と夢を描く

- ・ ユニークな起承転結の物語作り

(d) 第4回成果目標

これまでのワークショップを振り返り、プランの実行に向けて、参加者で企画する。

(e) 第5回成果目標

100年後の未来へ残すプランの実行

(2) ワークショップの活動報告

(a) 第1回目（8月27日 45名参加）

防賀川の自然の魅力、大切さを改めて認識

参加者を5班に分け、各班で自己紹介ゲームを行いました。皆さんの緊張がとれ、すっかりリラックスモードとなったところで、生物等調査に防賀川へ出発。

講師には、植物観察に湯川さん、昆虫観察に兼田さん、魚観察に河川レンジャーの田中さんをお迎えし、約1時間の現地観察会を行いました。蒸し暑さのなか、参加者は汗をふきながら、それでも熱心に講師の方の説明に耳を傾けていました。また、童心に返って夢中に魚とりをする人、子供達は歓声を上げ、長靴の中に水が入るほどはしゃいでいました。



魚とりに夢中になって

観察の結果、防賀川沿いには貴重な自然の多さに参加者はびっくりした様子でした。

植物観察：ヨモギ、ヒメジョオンなど 31種

昆虫観察：アオスジアゲハ、ツマグロヒョウモンなど
13種

魚観察：メダカ、ドジョウ、オイカワなどの稚魚など
10種

現地観察会から場所を室内に移し、河川レンジャーの山田さんの指導のもと、全員で防賀川の水質について調べました。COD（科学的酸素要求量）が5ppmを越え、汚れが多いという結果となり、水質の改善が必要ということが、分かりました。



簡易パケットテストを行う参加者

(b) 第2回目(9月18日 26名参加)

防賀川の川ウォッチング・わいわいマップ作り

参加者を2班に分け、カメラ片手に、「防賀川の堤防には自然の植物がたくさんあるね。」など、良いところも、残念なところも、参加者同士で改めて確認しながら防賀川の散歩を行いました。その後、室内に戻り、一人一人の思いを付箋紙に書き、発表。発表途中に「あっ、俺も(私も)と、同じことを考えてた。」など、同じようなものを地図上でグルーピングし、「わいわいマップ」を作成しました。そして、各班ではマップに次のようなタイトルが付けられました。

・1班 『自然と歴史をのこす川』

「マンボ」の保存や、川の中のステージの活用、ホテル再生など、歴史と自然に着目した、マップに仕上がりました。

・2班 『天井川よ、さようなら!』

天井川を切り下げた後の川の環境について着目したマップに仕上がりました。



わいわいマップ / 2班の例

防賀川沿いに木陰を作ろう!

多くの参加者から、防賀川沿いの一部の区間で、「木陰がないので、暑い!」という意見があり、第4回・第

5回のワークショップで、防賀川沿いに植樹を行い、木陰を作ってはどうかという提案があり、前向きに考えていこう! ということで、終わりました。

(c) 第3回目(9月23日 21名参加)

防賀川の100年後の未来へ届けたい

参加者を4班に分け、防賀川について「100年後の未来に届けよう!ふるさと遺産づくりの第一歩」というテーマを設けました。「こんな防賀川になってほしいな」という写真を使い、物語を作成。

物語には起承転結を特に意識し、ユニークなストーリーを組み立て、ポスター風に完成させました。各班思い思いの登場人物、動機、いざこざ、解決策などを考え、そして最後にはハッピーエンドを迎える楽しい物語を完成!



3班の例 / 引っこしてきたカワセミだ

各班毎で完成した、防賀川の夢物語をみんなの前で発表! 皆さんドキドキしながらも、これからの防賀川の夢を膨らませた発表となりました。各班の夢は次のとおり。

・1班 『夢みるドンコ in 防賀川』

・2班 『人々の集まる憩いの場!!』

・3班 『引っこしてきたカワセミだ』

・4班 『100年後の未来へ届けよう!

ふるさと遺産づくりの第一歩!』



2班の発表の様子

防賀川沿いに苗木を植え、育てていこう！

前回、参加者から「木陰がないので、暑い！」という意見から、植樹の提案がありました。その後、当会で、地元の方や管理者である京都府、京田辺市へ「植樹はできないものか」と相談。継続的な打ち合わせが必要としながらも、植樹をすることについて前向きな話となりました。そこで、参加者へ『第4回、第5回のプランの実行は植樹』という、発表となりました！

(d1) 第4回目(10月29日 24名参加)

防賀川の植樹に向けてふさわしい樹種はなあに

近畿地方で自生している樹木、皆さんのなじみのある樹種の中から、京田辺で育ちやすい樹種を選び、更に既に防賀川沿いにある樹種も参考にし、最終的に、24種の樹種に絞り込みました。

樹種の提案では、イチヨウ、クヌギ、シダレヤナギ等の落葉樹、花と実が楽しめるトチノキなどの意見が出ました。野鳥の止まりやすい低木の意見もありました。

植樹後の育てるをテーマに意見が交わされ、「子供達とどんぐり拾いをしてコマを作って遊ぶ」や、「絵や芸術のネタとして樹木と親しむ」、「きもだめし」、「フリーマーケット」、「緑の回廊」等の魅力あるイベントの提案があり、また、清掃・ボランティアについては今後の課題として話し合う必要性を感じました。



各班が思う植樹の発表の様子

防賀川への樹種の決定にあたり、沢山の方からもっと意見を伺うべきではないかという声があがり、河川レンジャーの山村さんより、11月に行われる京田辺の文化祭で植樹のアンケートを取ろう！という提案がされ、参加者から了承を頂きました。



参加者それぞれが思う樹種に期待を胸に投票中

(d2) 番外編・京田辺市民文化祭、せせらぎ祭り(11月5日、6日、12日、13日延べ約1000名の方へ説明、樹種アンケートの協力)

防賀川植樹への多く方からの期待

これまで積み重ねてきた防賀川ワークショップの成果をポスターにまとめ展示を行いました。一人一人の方にワークショップNEWSを手渡し配りながら、説明を行い、少しでも多くの方に樹種アンケートに答えて頂きました。また、樹種のアンケートだけをとるだけでなく、一言メッセージも添えて頂くようお願いしました。



文化祭で樹種の説明受ける模様

(一部ですが、皆さんから頂いたご意見を紹介)

未来への遺産

- ・子供達が成長した時は成長の記録になりそうです。
- ・緑も花もある京田辺。いいですね。ますます、好きな町になりそうです。
- ・地球にやさしい活動をぜひ続けてください。

防賀川はこんな川であってほしい

- ・木陰ができて、いい川べりになりますように。
- ・みんなが憩える場所を作ってくださいたらうれしいです！！
- ・マンボを残してほしい。それぞれの路線をまたぐ遊歩道緑の回路に最適。ぜひ、ご検討ください。

動植物が集まる

- ・鳥や動物が集まってくる様にしてください。
- ・魚、ホタルがみられるよう希望しています。
- ・虫が住みやすい木がなくなる現代。頑張ってください。

その他

- ・美しいまちづくりに協力させてください。
- ・防賀川の事をもっと知りたい、知らせなければ。
- ・防賀川に植樹し、四季を楽しみましょう

多くの方に、樹種のアンケートだけではなく、暖かいメッセージをいただき、会の活動を後押しして頂き、来年3月を予定している植樹祭に向け、弾みがつきました。

防賀川に植樹する樹種の決定!

24種の樹種アンケートの投票数、今後の管理(樹高、剪定強さ、乾燥性、耐寒性、害虫被害)を踏まえ、点数で評価(30点満点)し、最終的に5種に決定。

1位ハナミズキ(25点)、2位ヤマモモ(24点)、3位イチヨウ(22点)、4位イロハモミジ(21点)、5位シダレヤナギ(19点)樹種が決定し、3月の植樹祭に向け準備を始めました。

(e)第5回目(3月18日 37名)

みんなで木々を大きく育てよう!防賀川植樹祭

ワークショップの積み重ね、京田辺市民文化祭など、延べ約6,300名の方へ周知、対話を重ね一つの成果として、防賀川植樹祭を迎えました。



参加者による植樹の様相

17本の苗木を、参加者の方々に一つ一つ丁寧に、穴を掘り、肥料をまぜ、苗木を植え、土を埋め戻す。更に、杭を打ち込み、添え木を取り付けました。



添え木となる杭を打ち込んでいる様子

「木々を大きく育てる活動」「もっと良い川にする活動」をテーマに参加者で話し合い

・木々を大きく育てる活動として、「大切な水やり、地域との方とのつながり」「栄養たっぷりの土、自ら土を作ろう!」「みんなで見守る、定期的な観察」が必要との意見ができました。

・良い川にする活動として、「クリーンな川とマナー向上」、「美化活動、川の手入れ」、「ホタルの再生」、「みんなで楽しい活動」など、これからの防賀川に必要な活動が、提案されました。



今後の活動を参加者で考える/ワークショップ

3. 今後の課題、展望

防賀川の水量は、幅約2m、水深10cmもない、とても、1級河川と思えない小さな川です。誰もが、魚や植物、生物が住めるという環境ではないという既成概念があり、多くの人は防賀川について興味をもっていませんでした。

今回、ワークショップを通じて、改めて、防賀川の貴重な自然の存在について考え、共感頂けたのではないのでしょうか。また、多くの方と話し、街の歴史や自然を学び、人と人との繋がりのきっかけができたのではないのでしょうか。

植物では、これだけの短時間で発見された31種の植樹物の保全活動がこれからも必要ですし、こんな小さな川にも、メダカやオイカワの稚魚が存在していることがわかりました。また一方で、外来種のブルーギルの存在も確認されており、進入経路の見つけ出し、また、駆除活動も行っていくことが必要だとわかりました。



ワークショップの成功に参加者の笑顔

川ウォッチングでは、防賀川のマンボの存在は、赤レンガで造られた明治期の建造物で、参加者にはとても印象的だったようです。ぜひ、切り下げ後も、マンボの建

造物だけは、保存すべきではないかという意見が多くあり、今後の活動を考える上で非常に重要だと思います。



天井川の象徴 防賀川マンボの存在

今後の防賀川ワークショップを考える上で非常に重要だったのが、100年の未来を考える、すなわち夢を描き育てるといこと。各班本当に一生懸命に、たくさんの夢を描いてくれました。なかでも1班が描いた、「夢みるドンコ in 防賀川」です。物語は、次の内容でした。

私はドンコよ。少し汚れている川でも住めるんだけど、清流にあこがれているの。花火、ちょっとこわいけど、京田辺でもここで復活してくれたらいいな。それでね、子供達が川を掃除してくれたよ。さくらも植えてきれいな堤防になったよ。近くで祭りも開かれるようになったよ。そして何よりもうれしいのは、清流にすむお魚さんたちが増えたことだよ。

この夢を育て、未来へ届けるために、継続的なワークショップの開催が必要です。



「夢みるドンコ in 防賀川」夢物語

最後に、第4回、第5回行った防賀川へ植樹プランと実行でした。主催者側も、本当に植樹ができるのかと、最後の最後までハラハラドキドキしました。何とか、参加者、地域の方々、行政の方にも協力をいただき、無事植樹ができたことは、これからの活動に関係者全員の自信が付いたのではないのでしょうか。

しかし、植樹をしたことだけを喜ぶのではなく、これから、どのように育てていくのが、重要なテーマです。植樹後に行ったワークショップが物語っています。木々を大きく育てるためには、「大切な水やり、地域との繋がり」、「剪定、防虫対策などの専門知識の学習」、「みんなで見守る・定期的な観察」が必要。これからの防賀川には、「クリーンな川とマナー向上」「環境のシンボル、ホテルの再生」「興味と親しみ、楽しい活動」が必要。これらも今後の活動を行ううえで、大切なキーワードがわかりました。



参加者全員で第1幕(植樹)の成功を祝う

4. さいごに。

このワークショップの企画、運営が出来たのは、やはり、NPO法人やましろ里山の会の役員や会員の方々、河川レンジャー、地域の方々、行政、参加者の方々、熱心なご協力、温かなご支援があり、ここまでたどりつきました。約6,300名の方達と、この防賀川の100年後の未来の姿・夢を描くことができました。心より、感謝の意を申し上げる次第です。

最後になりましたが、これで終わってしまうのではなく、ここからが始まりだ、出発だと、肝に銘じ、100年後の防賀川を皆さんと共に、是非育てていこうではありませんか。